

平成28年度 稲築東中学校 学校評価 報告書

平成29年3月22日

【学校教育目標】
確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく生きる生徒の育成

【本年度の重点目標】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会性と情動の学習」を全教職員共通理解のもとに推進することにより、生徒間及び生徒と教師間の親密で良好な関係を築く。</li> <li>・そのことを基盤にして、学習規律の確立や生徒指導にあたり、学力を向上させ、問題行動を未然に防止し、新規の不登校をつくらないようにする。</li> </ul>

4 大変よい 3 よい 2 努力を要す 1 すぐに改善

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
組織・運営	学校経営	<p>学校教育目標の具現化に向けて、教職員一人ひとりが経営方針を理解し、組織的・協働的・意欲的に学校経営に参画する。</p> <p>〈結果〉 学校経営に関する各評価項目はほぼ改善されており、組織的・協働的・意欲的に「学校づくり」に参画する意識が職員間に定着してきた。</p>	3.2	<p>学校経営に対する参画意識の評価が3.2と高いのは、素晴らしいことです。改善策の中に挙げられている「教職員間の意識の格差」の解消に向けて、さらなる取組を進められることを期待しています。</p>	<p>学校経営への積極的な参画意識が定着する一方で、具体的な方策の計画・実施については職員間の格差が見られる。特にミドルリーダー(中核教員)の人材育成と、OJTによる教師力アップの取組が更に必要である。</p>
	校務分掌	<p>校務分掌組織の活性化を図るために、P-D-C-Aサイクルに基づいたマネジメントを推進し、定期的な評価と改善を行う。</p> <p>〈結果〉 学期末の校務分掌部会や係ごとの会議で、反省・評価・改善策の提示が定着し、主任・主事・係の責任者等によるマネジメントサイクルが展開されるようになった。</p>	3.0	<p>若手の育成やミドルリーダーの育成は、学校における喫緊の課題です。各種会議等で、PDCAサイクルが定着しているようですので、OJTによる実践的な指導力の向上が図られると、さらによいと思います。</p>	<p>学校組織マネジメントをより機能させるために、「同僚性」を育み、評価と改善のための活発な論議ができるように会議等の持ち方を検討する必要がある。</p>
	情報発信	<p>学校の教育方針や生徒及び学校全体の活動を保護者や地域に知らせるとともに、協力体制の構築をはかる。</p> <p>〈結果〉 学級・学年通信・学校通信を定期的に発行し、生徒や学校の様子を保護者に知らせることができた。特に、ホームページの更新や安心メールの活用に関心した結果、保護者アンケートにおける肯定的な意見が昨年の73%から81%に増えた。</p>	3.3	<p>本年度は、安心メールやホームページ等の情報発信が充実していたと聞いています。生徒の様子が分かることで、保護者や地域への啓発や連携に大きく資するものになると思います。今後も継続していただきたい取組です。</p>	<p>更なる学級・学年・学校通信の内容を充実させ、発行頻度に於いて学年較差の解消を図る必要がある。また、ホームページの内容充実にも努め、保護者や地域の方々に学校の様子をさらに分かりやすく知らせ、開かれた学校づくりに努める。</p>
	学校評価	<p>学校評価を定期的実施することにより、改善と充実を図る。</p> <p>〈結果〉 課題を見やすくするために、内容を一部変更して生徒や保護者アンケートを実施し、自己評価に反映させた。</p>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動を充実させていくためには、自己評価や他者評価の果たす役割は大きいと思います。特に、教職員による自己評価が向上しているということは、教職員自身が手ごたえを感じているということですので、参画意識もさらに高まると思います。</li> <li>・今回のアンケートは、家庭の状況が見えやすい。</li> </ul>	<p>学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのために、各種アンケートを分析し、課題の明確化と共有化を図る。また、学校行事や授業参観の機会を増やし、具体的な教育活動を評価対象にする。</p>
	総合所見	<p>教職員一人一人の経営参画の意識が高まってはいるが、若年教師が今後大幅に増える事を見越し、人材育成・ミドルリーダーの育成が急務となっている。教職員アンケートの結果では、学校経営に関する内容について昨年度よりほぼ全項目において肯定的な割合が増加しているが、取組の一貫性や共通理解の向上及び組織的・協働的な学校運営がさらに必要である</p>		<p>稲築東中学校が落ち着いてきているという話をよく聞きます。一人の先生の頑張りだけではなく、組織的・協働的な取組ができていたためだと思います。今後も、全職員の共通理解のもと、学校教育目標の具現化に向けて取組を進めていただきたいと思っています。</p>	<p>全職員の共通理解のもと、改善点を明確にしてP-D-C-Aサイクルを短期で回し、教育目標の具現化をさらに進める。</p>

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
教育課程・学習指導	授業時数	<p>教育課程の完全実施のため、授業時数を確保する。</p> <p>〈結果〉 事前に年休・出張を把握し、毎週の時間割編成で振替授業が確実に 行われ、授業時間の確保ができています。夏休みには5日間の登 校日も設定し、授業時数確保に努めた。</p>	3.3	<p>夏休みに登校日を設定するなど、積極的に授業時数を確保 することで、生徒の学力も向上していくと思います。来 年度も、自然災害やインフルエンザ等のための臨時休校 や学年閉鎖等を見据え、授業時数の確保に努めていた きたいと思います。</p>	<p>次年度も教育課程の完全実施に向けて引き続き授業時 数の確保を行い、学力向上をめざす。教科間の格差を なくすとともに、課題教科への補充・調整等を行う。</p>
	学力向上	<p>生徒の実態に基づいた学習指導体制や授業改善に努め、学力向上 プランに基づいた指導方法の工夫・改善を行う。</p> <p>〈結果〉 意欲的・主体的に学習する「わかる授業」の工夫・改善については、 生徒・教師のアンケート結果では肯定的解答が90%を超えている。 保護者の肯定的回答は昨年度の81%から85%となった。</p>	3.3	<p>「わかる授業」の工夫改善の項目で、肯定的な回答が 90%を超えていることは、大変素晴らしいことだと思いま す。学年間の格差があるということですので、学力向上委 員会や教科部会などが母体となり、その解消に向けての 取組を組織的に進めてください。</p>	<p>学力・学習状況調査やフクトテストの結果分析を学力向 上委員会が行い、教科部会で具体的な課題の洗い出し や改善策の検討を丁寧に行った。その継続と校内研究 や研修を充実させるとともに、定期的に教科部会や教科 間の交流を行うことで効果的な指導をめざす。また、家 庭学習の定着を図るために補充学習や自学ノートの内 容及び家庭との連携を図る。</p>
	少人数指導	<p>少人数指導や個に応じた指導を行い、基礎・基本の学習内容の定 着を図る。</p> <p>〈結果〉 加配教科において、TT授業、習熟に応じた分割授業、個別指導など を行うことができた。課題のあった教科について、フクトテスト等の結 果で改善が見られた。</p>	3.5	<p>課題のあった教科で成績が向上したことは、加配教員が 有効に活用されているからだと思います。今後とも、TT授 業、分割授業、個別指導等、多様な学習形態で、生徒た ちの学力向上に努めてください。</p>	<p>配置された教員を有効に活用し、教科における少人数 指導や個に応じた指導法を工夫改善し、有効的な実践 につないでいく。また、具体的な到達目標を明確にし、 繰り返し指導を徹底することで、基礎・基本の定着を図 る。</p>
	情報機器の活用	<p>情報機器(パソコン・電子黒板等)を活用した授業実践を工夫する。</p> <p>〈結果〉 教師のアンケート結果では、教科や学級・学年活動で情報機器を活 用した授業実践を行っているが、昨年度の68%から72%となった。 また、新たに「プログラミング教育」を導入できた。</p>	2.9	<p>・情報機器を積極的に活用される先生とされない先生の 格差があるように思われます。また、電子黒板も十分に活 用されていない印象を受けました。研修等により、情報機 器活用の技能と教職員の意識を高めてほしいと思いま す。 ・情報機器の台数が少なすぎる。</p>	<p>情報機器活用のための職員研修を行い、効果的な活用 方法や授業実践を工夫することで、教育効果を高める。</p>
	総合所見	<p>今年度の全国学力・学習状況調査(3年生)においては、全領域で前年度を 大きく上回り、6年時よりも大きな伸びを見せた。実力テスト(フクト)も回を追う 毎に偏差値が上がり続けた。一方、2年生にあつては、1年時よりも改善して いるものの、全教科で県平均(フクト)を大きく下回っている。このように学年 較差が本校の課題であり、入学時の較差解消も含めた改善策が必要である。</p>		<p>入学時の格差については、本校(稲築東小学校)の課題 でもあります。児童の学力を向上させる取組を本校でも進 めていきたいと思えます。また、小中連携推進協議会で、 学力向上の取組を小学校と中学校の教職員で交流し、段 差の解消や共通に取り組んでいく内容等を決め、校区9 年間で学力向上に取り組んでいければと思います。</p>	<p>学年実態に応じた加配教員の有効活用(多様な学習形 態)をはじめ、補充的学習、家庭と連携して家庭学習の 定着を図ることで学力の向上を目指す。</p>

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
積極的 生徒指導	規範意識	<p>規範意識の醸成に向けて、規律や秩序を大切に、よりよい人間関係づくりをめざした積極的生徒指導を行う。</p> <p>〈結果〉 アンケートに対し、88%の生徒が学校の規則を守っていると答えている。保護者も93%が肯定的である。また、生徒指導についての共通理解や積極的生徒指導の推進について教師の95%が肯定的である。</p>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と保護者の肯定的意見が高いところが良いと思います。特に、保護者の方も、自分の子どもが落ち着いた学校生活を送っていることを実感されていることと思います。</li> <li>・携帯電話やスマートフォンの問題は、家庭の果たす役割が大きいと思いますので、家庭と連携をしながら指導していく必要があると思います。</li> <li>・教師間の一貫した指導をお願いします。</li> </ul>	<p>今後も学校規則に関する家庭への周知を図るとともに、学校・保護者間での相互理解を図ったうえで、積極的な生徒指導に取り組む。また、教職員間の一環した指導の確立に努める。特に、携帯電話やスマートフォンに係る家庭のルールづくりの課題に取り組む必要がある。</p>
	関係作り	<p>教育活動全般を通して、生徒間や生徒・教師間の人間関係づくりを図る。</p> <p>〈結果〉 社会的能力(コミュニケーションスキル等)を身につけさせるSEL8Sの取組や学校行事(体育会、夜須高原キャンプ、修学旅行、クラスマッチなど)を通して、生徒同士の関わりや理解を深めることができた。</p>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者アンケートの「先生は、親身になって自分たち(子ども)のことを考えてくれる」の肯定的意見が、1学期に比べ、2学期が下がっていることや学年間の格差が気になります。理由を丁寧に分析し、方策をとられるようお願いいたします。</li> <li>・体育会を見て感じたことは、生徒と教師の連帯感が強まっていると実感できた。</li> </ul>	<p>対人関係によるトラブルによるけが減り(保健室調べ)、対教師暴力は0となった。一方、「先生たちは親身になって自分たちのことを考えてくれる」と感じている生徒の学年較差があり、日頃から生徒の様子に気を配り、信頼関係を確かなものにしていく必要がある。</p>
	生活習慣	<p>基本的な生活習慣の確立と生活態度の向上に努める。</p> <p>〈結果〉 学校管理下における災害発生数が、26件→25件→13件(本年度)と減少傾向にある。不登校傾向の生徒についても、13人→8人→4人(本年度)となった。遅刻や欠席及び不登校生徒の状況等の確認も担任・副任や不登校対策委員会・生徒指導委員会が協力して行い、家庭と連携しての取り組みに努め、本年度は昨年度に比べ半減させることができた。</p>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生数や不登校生徒の減少は、学校が組織的に取り組んできた成果だと思います。また、家庭との連携ができたことも素晴らしいことです。不登校や生活習慣の確立は、小中での連携を更に図りながら、校区としての取組を充実させていく必要を感じています。</li> <li>・不登校の減少は、教師・保護者・生徒との相互理解の成果だと思う。</li> </ul>	<p>不登校及び不登校傾向の生徒には、プロジェクトチームでの対応を継続し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を深め、生徒だけでなく家庭への指導・助言等を行っていく。関係機関との連携を更に深めながら、厳しい家庭環境にある生徒の生活習慣の確立や保護者の協力に向け、家庭との連携をさらに密にする。</p>
	教育相談	<p>心身の健全な育成をはかるための定期的教育相談を行い、内容の充実を図る。</p> <p>〈結果〉 定期及び随時に教育相談を行いながら生徒理解を深め、内容の充実を努めた。「定期的な教育相談の実施」については教師の肯定的な解答は77%で、昨年より12ポイント上昇している。</p>	2.9	<p>教職員アンケートの「定期的教育相談の実施」が、昨年度と比べ高くなっているものの、他の項目と比べ、低いのが気になります。思春期の多感な時期でもあり、不安や心配を除いてあげられる教育相談体制の強化をお願いします。</p>	<p>教育相談の内容や時期・持ち方などを検討するとともに、日常的な生徒への声かけや気配りに努める。教員の生徒理解・生徒指導に関する研修を充実させる。</p>
	総合所見	<p>きめ細やかな日常的な取組、行事等を活かした積極的な生徒指導、SEL8Sや道徳の授業の相乗効果で、生徒は落ち着いた学校生活を送っており、基本的な生活習慣や規範意識が定着しつつある。生徒・保護者の学校(教師)に対する信頼関係も年々構築されてきた。けれども、様々な背景を有する生徒がおり、より深い生徒理解や生徒指導に関する教師の研修も必要となっている。また、課題を抱えている生徒の家庭への指導・助言を組織的に取り組む必要がある。</p>		<p>行事等の体験活動を生かした積極的な生徒指導、SEL8Sや道徳の授業、そして、きめ細やかな日常的な指導等、本年度の取組の重点が明確であり、その成果も表れている点は、高く評価できます。今後も積極的生徒指導を充実させ、安心して学べる学校づくりの推進をお願いします。</p>	<p>研究主題「豊かに人間関係を結び、主体的に行動できる生徒の育成」の研究成果を整理し、効果的な指導法を見極め強化する。</p>



領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
教職員の資質の向上	主題研修	<p>学力向上を目指し、組織的・計画的に主題研究を推進する。</p> <p>〈結果〉 市の研究指定2年目に入り、計画的な授業研、講師研や各種アンケート等の分析により、研究主題の理論研修や共通理解を深めることができた。</p>	3.2 市の研究指定もあり、教職員の研修に対する意識も高まっているようです。全教職員による共同研究としての主題研究は、校内の課題解決のための大きな柱となるだけでなく、教職員間の親和性を高め、協働意識を高めることにもつながると考えます。来年度の研究発表会に期待します。	生徒の落ち着いた学校生活や学力向上を研究の成果と感じつつも、客観的なデータは十分でない。説得力のある内容にどうまとめるかを検討し、来年度の発表を自他共に有意義なものにしていかなければならない
	一般研修	<p>教職員の指導力向上のための研修を計画的・組織的に取り組む。</p> <p>〈結果〉 外部講師を招聘しての研修会だけでなく、教務部や生徒支援部・研修部による独自の研修会も持つことができた。</p>	2.9 嘉麻市では、「学力向上」、「不登校の解消」、「規範意識の醸成」に加え、「ふるさとを愛する心の育成」が新たな柱となっています。来年度は、道徳の時間を中心に、ふるさとを愛する心を育てるための教育活動について、研修を行われてはどうかと思います。	教職員の年齢構成が壺型になっており、次世代を担う人材育成は喫緊の課題である。ミドルリーダーの育成を図るためにも、同僚性によるOJTを推進し、学校の課題に即した自発的な研修を企画させる必要がある。
	服務	<p>教職員の服務規律の確保に努める。</p> <p>〈結果〉 教育公務員として、日常的に服務規律を意識し行動するよう努めた。情報管理についても、十分に注意している。危機管理マニュアルに基づき、職員の共通理解を図った。</p>	3.0 ・今なお教職員の不祥事・不適切な振る舞い等が頻繁に取り沙汰されています。学校への信頼を高めるためにも、実効性のある危機管理マニュアルを作成・実施し、更なる教職員の意識の向上に努めていただきたいと思います。 ・これからも危機管理マニュアルを基にした校内研修会を充実して欲しい。	教職員の服務規律・法令遵守に関する研修・管理職からの指導を日常的に行い、不祥事防止に努めた。危機管理意識を維持するため、危機管理マニュアルをもとにした校内研修会を計画的に実施する。
	総合所見	<p>本校の年齢構成が若く、中堅層が少ない職員構成となっている。従って、授業力・生徒指導力をつける校内外の研修や、職場でのOJTによる教師力向上が必須である。</p>	若手教員の育成とミドルリーダーの育成は、教育界全体の課題です。若手教員に実践的授業力や生徒指導力を身につけさせていくことはもちろんのこと、これまでの諸先輩方が積み上げてこられた財産(学校文化)を継承していくことも重要だと考えます。そのために、ミドルリーダーが学校の中核となる学校風土を作り、若手教員に対して指導力を発揮できるような学校体制の構築を望みます。	人材育成のためには、仕事を任せただけでの指導体制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校外での各種研修への受講・参加を校務分掌やライフステージに応じて奨励し、環流学習会等を通して組織的・協働的実践につなげる。